官報新報

明治十八年七月一日ヨリ施行

太政大臣 公爵三條實美
大藏卿 伯爵松方正義

官報

驛遞局認可

明治十八年五月十三日
（西暦一千八百八十五年）

水曜日

第九百六十七號

日曜日休刊

業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條　菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ屆出ヘシ但增員アルトキハ其時々之ヲ屆出ヘシ○第十三條　菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ屆出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分　其年七月十五日限
七月一日ヨリ十二月卅一日迄ノ分　翌年一月十五日限

第十四條　菓子製造人ハ菓子幷ニ其製造原品ノ賣買ヲ帳簿ニ記載シ置ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス○第十五條　菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ○第十六條　主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑ヲ携帶スヘシ○第十七條　第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス○第十八條　第十二條第十三條ノ屆書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス○第十九條　第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス○第二十條　第五條第六條第十二條第十三條ノ屆出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス○第二十一條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス○第二十二條　菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス○太政官布達第九號

壹岐對島及朝鮮國ニ發着スル電報ノ料金幷海外電報ノ國內傳送料金別紙ノ通相定ム

明治十八年五月七日　太政大臣 公爵三條實美
工部卿 伯爵佐々木高行

別紙

一壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報一音信ノ料金左ノ如シ

郷ノ浦分局	正貨三十錢	嚴原分局	正貨三十錢
內地各分局	正貨五十錢	釜山分局	正貨六十錢
長崎分局	正貨二十錢	嚴原分局	正貨四十錢
郷ノ浦分局	正貨二十五錢	嚴原分局	正貨五十錢

一壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報ハ和文片假名七字歐文ハ一語ヲ以テ一音信トス片假名七字ニ滿タサルモノハ亦同シ○一壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報和文ハ受信人ノ住所氏名ヲ字數ニ算入セス歐文ハ發信人受信人ノ住所氏名共ニ字數ニ算入ス○一前三項ノ外日本朝鮮兩國間ノ電報ハ總テ電信萬國條約書ニ依リ取扱フモノトス○一海外電報ニ日本語ヲ用フルトキハ羅馬字ヲ以テ書報スヘシ○一海外電報ノ國內（壹岐對馬ヲ除ク）傳送料金ハ何地ヨリ發スルヲ問ハス一語毎ニ正貨二十錢トス長崎以外ノ傳送料金ハ海外各國ニ於テ定ムル所ニ依ル

一壹岐對岸及朝鮮國釜山浦ヨリ海外ヘ發スル電報長崎迄一語ノ料金左ノ如シ

郷ノ浦長崎間	正貨三十錢	嚴原長崎間	正貨六十錢
釜山長崎間	正貨六十錢		

其餘ハ海外電信料表ニ依リ取ルヘシ

內地各分局	金貳拾圓	釜山分局	金貳拾圓
內地各分局	金拾五圓	釜山分局	金拾五圓
內地各分局	金拾圓	釜山分局	金拾圓
內地各分局	金五圓	釜山分局	金五圓
內地各分局	金一圓	釜山分局	金一圓
內地各分局	金七圓	釜山分局	金七圓
內地各分局	金三圓	釜山分局	金三圓
內地各分局	金一圓	釜山分局	金一圓

○陸軍省達甲第二十二號

今般屯田兵條例敎定長付テハ自今屯田事務局ヲ屯田兵本部ト相稱シ候條此旨相達候事

明治十八年五月七日　陸軍卿 伯爵大山巖

○東京府告示乙第百五號

露國樺太島ヘ漁業出稼志願ノ者ハ當廳ノ願書ヲ以テ同國哥爾薩港駐在ノ領事ヘ直ニ出願可致答ニ付若シ本人出行又ハ幸便ヲ難得場合ニ於テハ右願書幷添書ヲ糊封シ封表ニ願件及屬籍姓名ヲ詳記シ領事館ヘ宛本人ヨリ直ニ外務省ヘ差出候得ハ公信便ヲ以テ遞送可相成候條此旨告示候事

明治十八年五月八日　東京府知事 芳川顯正

○東京府令達

露國樺太島漁業出稼出願手續ノ儀今般乙第百五號ヲ以テ及告示候處同國ニ於テハ漁業免狀ヲ所持セス漁場ニ碇泊スル船舶ハ總テ密猟船ト見做シ拘留スルノ成規ニ有之候條右告示ノ手續ヲ經ス直ニ該島ヘ渡航スル等ノ心得違無之樣可致此旨達候事

明治十八年五月八日　東京府知事 芳川顯正

賞勳敍任

○明治十八年四月七日

敍勳四等賜旭日小綬章

歩兵大尉正七位勳五等 山田貞久
同 馬屋原務本
同 栗林頼弘
同 平佐良藏
同 山本盛英
同 西島助義
同 三木清一
同 吉田一
同 野崎貞次
同 原田良太郎
同 荻野子儀
同 梅澤道治
同 石島喬平
同 筒井元彥
同 草場彥輔
同 西村精一
同 巖谷立太郎
同 木村文卿
同 加茂退藏

敍勳五等賜旭日章

同 騎兵大尉同 歩兵大尉同
同 勳六等

○明治十八年五月十一日

敍正七位任檢事任能神社宮司

大審院書記 能神社禰宜

時事報報

今日ノ國是ハ如何

嘉永開國以來我國ノ文明ハ髮ヲトシテ進ンデ止マル所ヲ知ラズ歐米諸國此有樣ヲ傍觀シ三日見ザレバ日本復タ東洋ノ舊阿蘇ニ非ズトテ激賞ノ餘我レヲ目シテ改進國ト云ヒ我レ亦自カラ其改進ノ速ナルニ驚キタル程ノ次第ニテ僅々二三十年間ニ今日文明ノ觀相ヲ呈スルヲ得タリ甚ダ愉快ナルガ如クナレ共ニ今ノ我國ノ文明ヲ以テ之ヲ歐米諸國ニ比スル昨ハ其距離尙遠シト云ハザルヲ得ズ左レバ今後我國ニ於テハ幾多ノ費用勞力ヲ客マズ多々益歐米有形ノ文明ヲ買ヒ入レテ文明諸國トノ一首ハ移シテ國民文明ニ對スルノ關係ヲ評ス可キ其進歩ヲ競爭セザル可ラズト雖モ內ニ顧ミテ我國ノ現況ヲ察スルニ兩三年來不景氣ノ流毒ハ浸潤シテ國ノ骨髓ニ徹シ地價ノ下落金融ノ逼迫ノ爲メ民間ノ慘狀見ルニ忍ビズ其甚シキニ至テハ村々鎭トシテ人影少ナク數百ノ農家ハ一時ニ廢ニ居ルモノヽ如ク家內ノ有樣ハ廣寺ト一般、破戶古廟ヲ胸壁トシテ機ニ風雨ノ攻擊ヲ防クニ過ギズ尙甚ダシキニ至テハ何ケ村ノ人民饑渴ニ迫リ簞瓢困ヨリ盧シテ電下ニ蛛網ヲ見ルノ有樣ニシテ白粥ノ惠施ヲ慈善家戶長ナドニ申入ル等ノ事實ハ全國到ル處トシテ之レナキハナシ支那コトヲ凶歲ヲ形容スル言葉ニ老者ハ襁褓ヲ轉シ壯者は散して四方ヘ行くト云ヘルハ實ニ現時ノ眞境ニシテ我國各地ノ不景氣ハ既ニ最頂點ニ達シタリト申ス可シ斯クテ此不景氣ハ何ノ日ニ至テ回復セン歟其時機ノ如キ固ヨリ之ヲ豫測スル能ハズ雖モ要スルニ其原因ナルモノハ深クシテ且ツ遠ク一朝偶然ナル社會ノ變常態ニ歸ス可キモノニ非ザルヿ明白ナレバ之ヲ常態ニ回復スルニモ亦長時日ヲ費サヾル可ラズ而シテ此長時日間ニハ國民ノ貧困ナルニ準ジテ政府ノ收入、自然減縮セザル可ラズ政府ノ收入減縮スレバ其支出モ亦十分ナルヲ得ズ斯クテ公共ノ利益ヲ目的トシテ日新文明ノ事業ニ投ズルノ資本減少スレバ我文明ノ進歩モ其從來ノ速力ヲ持續スル能ハズシテ爲メニ幾分ノ停滯ヲ生セザルヲ得ザルナリ

我國ノ現況ハ正ニ前陳ノ如クナレ共庭櫻一枝ノ花ノ桑枯ハ天下芳春ノ盛衰ヲトス可ラズ山村水郭散ル花モアレバ咲ク花モアリ我國ノ不景氣ハ誠ニ不景氣ナリト雖モ廣ク海外諸國ヲ見渡セバ前途春如海トモ云フ可キ所アリテ文明駸々加速動ヲ以テ長驅スルモノナキニ非ズ且ツ夫レ今ノ文明ナルモノハ蒸氣電氣以下有形實物ノ文明ニシテ之ヲ買取ルニハ莫大ノ費用ヲ要シ之ヲ維持スルニモ亦大費用ヲ要セザルヲ得ズ況シテヤ其文明ハ今方サニ改良ノ途中ニ在ルガ故ニ苟モ文明諸國ノ競群ニ列シテ之レト文明ノ事ヲ共ニセントスレバ啻ニ在來ノ文明ヲ維持スルニ止マラズ大ニ日新ノ新文明ヲ買取ラザル可ラズ然リト雖モ錢アレバ買フ可シ、錢ナケレバ買フ可ラズ故ニ今ノ世ノ有樣ニテハ錢即文明ニシテ清貧ノ貧益清ケレバ文明ノ文益暗ク遂ニハ諸國ノ競群ニ後レテ其踪跡ヲ晦マサヾルヲ得ズ惡レ即チ東洋貧弱國ガ西洋富强國ノ文明ニ及ハザル所以ニシテ前途敵ヲ之レニ逼ヒ附カントスルハ喩ヘバさいら沙漠ノ旅客ガ遠方ノ蜃氣樓ヲ追躡スルガ如ク我レ一歩ヲ進ムレバ彼亦一歩或ハ二歩ヲ進メテ歩々益相離隔シ遂ニ之レニ追及スル能ハザルノ憾ナキヲ得ザル可シ斯ル事ノ次第ニテ我國ノ文明ハ平常健康ノ折ニテモ尙西洋文明ノ進歩ニ及ハザル程ナルニ今又不景氣ノ劇症ニ罹ヲ煩悶逡巡歩々益相及ハザルヿト爲レバ我輩日本人ノ殘念遺憾ハ決シテ一通リノ事ニ非ズ鎖國蟄居ノ時節ナラバ西洋ノ文明ハ何程ニ進歩スルモ我ニ於テ浮雲ノ如ク毫モ相交渉スル所ナシト雖モ世界風氣ノ變遷ニテ我國モ既ニ文明競進ノ群ニ入リタレバ其競進ノ遲速ノ如キモ亦痛痒ノ感ナキ能ハズ國、文明ヲ識ルハ憂患ノ始メニシテ「わひ見ての後れ心に較べれば昔しは物を思はざりけり」ノ一首ハ移シテ國民文明ニ對スルノ關係ヲ評ス可キリ我國民ハ既ニ文明ニ達ヒタリ今後之ニ對スルノ苦樂ハ鎖國蟄居ノ昔ニ比シテ決シテ同日ノ談ニ非ズ然ルニ目下我國ノ現況ハ我文明ニ利スル所ナク一朝海外諸國ノ形勢ヲ論シテ兼ネテ我國ノ大計ヲ議セントスルニ當リ我輩ヲシテ勳モスレバ我日本國ノ獨立如何ト云ヘル問題ヲ思案中ニ加ヘシムルガ如キ有樣アルハ實ニ痛慨ノ至リニ堪ヘザルナリ此時ニ當リ世上ノ政論家ナルモノハ我國是ヲ何ノ點ニ置キ以テ內外經營ノ謀ヲ爲サント欲スル歟我輩ノ最モ聞ント欲スル所ナリ（以下次號）

雜報

○山田司法卿　山田司法卿は去る九日山口に到着したるよし

○長與內務三等醫正は昨十一日山梨縣に出張せられたり

○環舞戴判陪席本月二日大坂地方裁判所陪席を命せられたり

○鍋島侯の宴會　國公使と鹿鳴館に於て

○前橋近況　去る糸の價次第に低下し方ふすを乞食ハ遂に墓延の前より市中に至る迄來と申す事なり

○和歌山通信　商用多くなり之に伴ふ推移り從て諸物より皆々殘來ポツ〳〵上等品盛なる樣子なり

○遠州森町通信　蠶作習所を設立し生徒の申込も續々備したる由○當月三日荒濱に於て遊戲を爲しかけたる向きも多し

○製茶の景況　茶は殆んど一國の買と始終候昨今は二圓八九十錢位より二圓、下等品は餘り上品ニ有之候

○製糸の景況　糸は毎晩夜通しに增に多分に相成年より直段の下落は青之間下落は四月頃の容子に有之候

○横濱市況　四月頃に依り山方大に上と言ひ一を燒子のみて上等の品たるものにて直段の上もの斤ものヽ一抜、名古屋、等の品に出荷致候もの

○位置　當森町は西へ入る五十戶、人口凡もわり胸所とも耶蘇教堂一箇所あり又電信局も出願し特別の

○山田司法卿は去る九日山口に到着したるよし